

主催：(一財)岡山セラミックス技術振興財団

共催：日本セラミックス協会中国四国支部、耐火物技術協会中国四国支部、東備耐火物粉碎工業協同組合、ホソカワミクロン株式会社、日立工機株式会社、タナベウィルテック株式会社、株式会社プリス、協和界面科学株式会社

## 第8回 粉砕・混合・成形技術セミナー

耐火物・セラミックス、原料関連産業など粉体を取り扱う企業において、必要となる粉砕、分級、混合に関する最新技術や法令への取り組み方などを紹介し、関係産業の技術力向上を支援することを目的としたセミナーを開催します。なお、本セミナーは7月6日に予定していましたが、豪雨の為に延期したものです。関係各位の皆様、多数御参加下さるよう御案内します。

日時

平成30年11月13日(火) 13:00~16:30

会場

岡山セラミックスセンター セミナー室  
(備前市西片上 1406 番地 18)

定員

50名

受講料

無料

申込方法

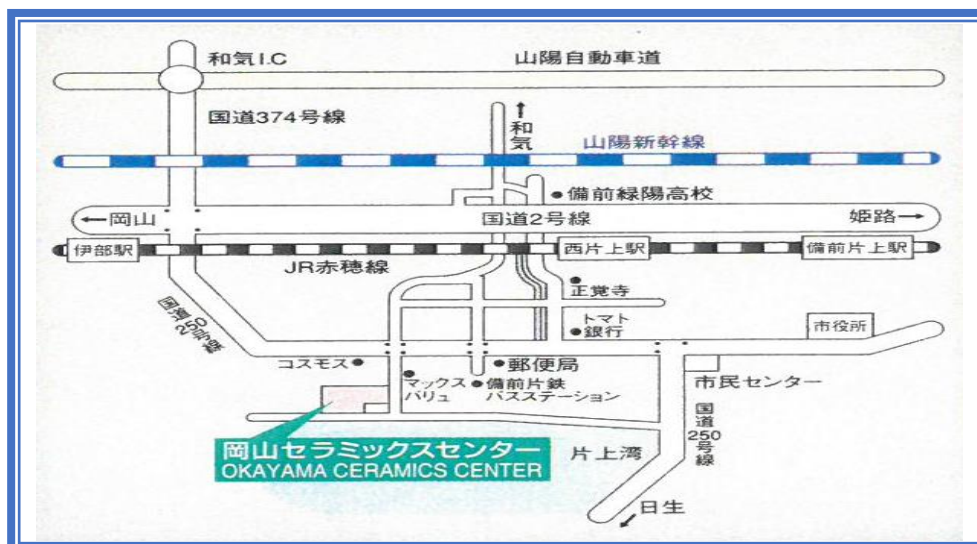
別紙お申込書に必要事項をご記入の上、FAX かメールにてご送信ください。  
(一財)岡山セラミックス技術振興財団 担当：川端(かわばた)  
TEL 0869-64-0505 FAX 0869-63-0227  
Email: erazoku@optic.or.jp

申込〆切

平成30年11月6日(火)

アクセス

JR岡山駅から 約30km  
JR赤穂線で45分 西片上駅下車徒歩約8分  
車で約1時間



# プログラム

時 間	項目／概要
13:00-13:02	開会あいさつ 一般財団法人岡山セラミックス技術振興財団 理事長 吉 鷹 啓
13:02-13:42	<p>『<b>粉体を扱う現場における労働安全衛生法、個別規制への取り組み方</b>』</p> <p>ホソカワミクロン株式会社 東京営業部 次長 佐 野 敦</p> <p>【概要】 労働安全衛生法の改正により、化学物質の管理をより厳しくするよう求められています。しかし、改正の内容は何なのか、何をしなければならないのか、各事業者への周知不足が否めないのが現状です。その中で最近、話題になる事が多い特化則を中心に、労働安全衛生法の改正について解説しながら、どのような機器で対応出来るのか、弊社機器を例にあげ説明します。</p>
13:42-13:47	休憩
13:47-14:47	<p>『<b>微粒子の高機能化を支える「遠心機分離技術」と「ろ過技術」</b>』</p> <p>工機ホールディングス株式会社 ライフサイエンス機器事業部</p> <p>アプリケーションサイエンティスト 可 児 修 一</p> <p>混合液スラリーから目的とする物質を効果的に分離・回収するためには、適切な処理方法を選択しなければなりません。本セミナーでは①混合スラリーの分離・分析に有効な「超遠心機」を用いた分離技術のご紹介と、②少量・多品種の製造やプロセス開発に適した「多機能ろ過乾燥機」及びディスク回転効果による、高効率なるろ過特性を維持した「回転式ろ過機」の原理と特徴を説明します。</p>
14:47-14:50	休憩
14:50-15:20	<p>『<b>超臨界スプレードライヤ（高圧二酸化炭素を用いた微粒子製造装置）</b>』の紹介』</p> <p>タナベウィルテック株式会社 淀川技術部開発課 田 中 雅 宜</p> <p>【概要】 噴霧媒体である超臨界状態の二酸化炭素(SC-CO<sub>2</sub>)の特性を利用した微粒子製造装置について紹介します。本装置は、溶液または融液、ナノ粒子懸濁液などとSC-CO<sub>2</sub>を混合し、大気圧下または真空下の回収槽内で噴霧します。その後、短時間かつ低温で乾燥または凝固(融液の場合)させ、連続的に均一な微粒子を製造することが可能です。</p>
15:20-15:50	<p>『<b>スプレードライヤーにリアルタイム粒度分布測定機を実装した最新事例</b>』</p> <p>株式会社プリス パウダーテクニカルセンター</p> <p>センター長 川 口 晋 也</p> <p>【概要】 「粒子径」をより正確に、より詳細に制御するために、スプレードライヤーにリアルタイム粒度分布測定機を実装したシステムを構築しました。本システムの事例報告や、目標D50を指定し、ディスク回転数の可変によるフィードバック制御をご紹介します。</p>
15:50-16:00	休憩
16:00-16:30	<p>『<b>希釈しない濃厚系粒度分布・ゼータ電位測定装置</b>』 ～セラミックスアプリケーションの紹介～</p> <p>協和界面科学株式会社</p> <p>国内営業部 国内営業課 技術担当 二 江 隆 之</p> <p>【概要】 超音波を媒体とした電気音響法、超音波減衰法を利用した粒度分布・ゼータ電位測定装置を紹介します。希釈による溶剤ショックが気になるサンプルも原液のまま測定可能です。数μmサイズの沈降しやすいサンプルは攪拌しながら測定可能で、高粘性サンプルは攪拌せず測定することも可能です。配管チューブを組み合わせることでインラインでの測定を行うことも可能です。</p>
16:30	閉会

11月6日(火) 〆切 川端 行

FAX0869-63-0227

[erazoku@optic.or.jp](mailto:erazoku@optic.or.jp)

## 第8回 粉碎・混合・成形技術セミナー 参加申込書

平成 年 月 日

(一財)岡山セラミックス技術振興財団 御中

〒  
住 所

会社名

申込者氏名

TEL

FAX

E-mail

以下のとおり参加申し込みます。

### 参加者氏名

氏 名	所属、役職	備考

講義の中でお聞きになりたいこと、質問事項などを講師へ事前に伝達いたします。

質問したい企業名	質問事項